

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

社会においては、地域における人と人とのつながりや、地域資源の活用と循環が弱まりつつあり、支え合いの関係が希薄になるという課題が見られます。かつて地域社会の中で自然に行われていた相互扶助や資源の循環は、社会構造の変化や経済合理性の追求などにより徐々に失われつつあり、農業をはじめとする第一次産業においても担い手不足や高齢化などの問題が深刻化しています。

一方で、農業や食はすべての人の生活に直接関わる分野であり、地域の人々が関わり合いながら共に学び、共に働く関係を育む現代とのできる重要な入り口でもあります。農業や地域資源の活用を通じて人と人との関係性を再びつなぎ直し、地域の中に支え合いの仕組みを再構築していくことが、これからの地域社会にとって重要であると考えます。

これまで代表者は2012年頃より循環型農業の現場に携わり、耕作放棄地の再生や条件不利地での栽培支援などに取り組んできました。これまでに関わってきた農地は延べ40ヘクタール以上（約40万平方メートル、東京ドーム約8個分）に及び、地域の農地活用や農業の継続に関わる実践を積み重ねてきました。また、放置竹林やもみ殻などの地域資源を活用した循環型の取り組みを行うなど、地域資源を活かした資源循環の仕組みづくりにも取り組んできました。

こうした実践を通じて、地域資源を活かした循環の仕組みづくりや、小さな生業や仕事づくりにつながる可能性を見出してきました。これらの取り組みを個人の活動としてだけでなく、より多くの人々と共有し発展させていくためには、農家、市民、事業者、福祉・教育関係者など多様な主体が参加できる組織としての基盤が必要であると考えました。

農業や地域資源の活用を入口として、多様な人々が関わり合う相互扶助のネットワークを形成し、地域資源の循環や新たな生業の創出を通じて、持続可能で支え合いのある地域社会の実現を目指します。

本法人は主に福岡市から糸島市、唐津市、伊万里市へとつながる地域を中心に、都市と農山漁村を結ぶ人のつながりを育み、農業や地域資源の循環、共に学び共に働く実践の場づくりを進めることで、地域の中に新たな協働と循環の仕組みを生み出していきます。

これらの活動を継続的かつ公益的に推進していくため、NPO法人たまのをを設立するものです。

2 申請に至るまでの経過

年月	活動・出来事のフェーズ	具体的な内容
2012年頃	問題意識の芽生え	所属していた農業法人において、生産現場の高齢化や資材価格の高騰など、地域農業を取り巻く構造的課題に直面する。
2014年頃	実践活動の開始	所属する農業法人の生産現場において、当初0.5haの農地からスタート。その後管理面積を段階的に拡大し、2021年頃には最大で約13haの農地管理に関わる。そのうち約7haは元耕作放棄地であり、農地再生や循環型栽培管理の現場を経験する。
2014年頃	多角的な調査・分析	地域農家や異業種の関係者へのヒアリングを行い、一次産業を取り巻く課題や地域資源活用の可能性について調査を実施。
2018年頃	草の根の支援活動	本業の傍ら、近隣農家等に対する農作業支援や栽培に関する相談対応など、個人的な支援活動を開始する。
2020年頃	組織化の検討と支援の拡大	個人での活動には限界があることを認識し、営利を主目的としない、地域インフラとしての組織（NPO法人）の設立構想を検討し始める。それにともない農業支援のネットワークも広がっていく。
2024年7月	設立準備の開始	設立準備会を立ち上げ、設立趣旨書や定款の作成、および設立社員の募集など法人設立に向けた準備を進める。
2026年3月	設立総会	設立総会を開催し、NPO法人設立についての意思決定を行い、本申請に至る。

令和8年 3月 13日

NPO法人たまのを
設立代表者 氏名 木村 耕平